

2022年7月20日

子どもの感染症 —予測と予防—

山口県小児科医会
会長 田原卓浩

新型コロナウイルス（BA.5株）の感染が急速に拡大しつつあります。
全世代に強い感染力を示しています。
今、子どもたちに忍び寄っている感染症は他にもあります。
みんなで感染症の流行の予測と予防を考えてみましょう！

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

政府からのメッセージとして緊急提言が公表されています。

予防の基本 政府分科会緊急提言「5つの対策」

- ワクチン接種の加速
- 検査のさらなる活用
- 効率的な換気の提言
- 国・自治体による効率的な医療機能の確保
- 基本的な感染対策の再点検と徹底

子どもたちと一緒にすぐできることは、
基本的な感染対策（手洗い・うがい・エチケットマスク・換気）です。
猛暑が続いていますが、混んでいる場所でのマスクの着用と換気を
忘れないようにしましょう。

RSウイルス感染症とヒトメタニューモウイルス感染症

どちらも高熱・咳・喘鳴（ゼーゼー）が強く現れる感染症です。
かかりやすいのは0・1・2歳の低年齢の子どもたちですが、
症状が急に強くなり、ピークを越えるまでに4-5日かかります。
ウイルス感染症ですので抗菌薬は効きません。
症状に対する薬とこまめな水分・栄養補給が大切です。

季節性インフルエンザ

—昨年から2年間まったく流行しなかった季節性インフルエンザですが、

今年冬を迎えている南半球でこれまでより早く流行が始まっています。過去のデータからは南半球の流行を認めると必ず日本でも冬に流行しますので、始まりが早そうです。

季節性インフルエンザに対するワクチンには重症化を防ぐ効果を期待できます。今年も10月からワクチン接種が始まります。

子どもたちだけでなくすべての方々に早めのワクチン接種をお勧めします。